学校防災に対する職員の意識向上を目指した取組について

ー　学校防災アドバイザー派遣・活用事業を通して　ー

川上村立川上第二小学校

1　はじめに

本校は長野県の最も東に位置し、山梨県・埼玉県・群馬県と接している。学校の標高は1,270mあり、夏期も暑さは穏やかで、この気候と立地を生かして村では野菜づくりが盛んである。また、冬は寒さが大変厳しいが、校庭に水を入れてスケートリンクをつくり、体育の授業でスケートに取り組んでいる。

校区内には千曲川の源流があり、２年に一度５・６年生が遠足で訪れている。現在児童数は、男子 42 名　女子 36 名　計 78 名である。児童の家庭の生業は野菜農家がほとんどである。

学校の南側は、道をはさんで千曲川が流れており、昭和 57 年 10 号台風では、村内全域で大きな被害が出ている。また、校舎西側には秋山沢があり、土石流危険地域にあたっている。

2　本校の防災体制について

川上第二小学校では、①火災　②地震　③台風・豪雪　について、それぞれ対応のマニュアルを作成し、それにしたがって避難訓練と事前・事後の指導を中心として、それに関わった防災教育を行っている。

現在、年間で３回の避難訓練を位置付けている。

（１）４月

・授業中に火災が起きた想定の基本的な避難経路の確認

・野外の集合場所の確認（第１次・第２次）

（２）９月

・休み時間に火災が起きた想定の避難（児童に予定を伝えないで）

・消防署に依頼し、消火器による消火の訓練（職員・児童）

・隔年で、消火栓を使った放水訓練（職員）

（３）11 月

・授業中に地震が起きた想定の避難

・村内放送・メール配信システムを利用した、保護者への連絡と引き渡し訓練

（大水を想定・土石流の発生を想定した訓練や指導は行われていない）

3　学校防災アドバイザーによる避難訓練の視察と指導について

９月１日（木）の火災想定の避難訓練の際に、学校防災アドバイザーに来校をいただき、実際に避難訓練の様子を視察していただき、児童への講話と職員への指導をいただいた。職員への指導の概要は以下の通りである。

- 川や谷が近い地域であるので、水害等も想定した避難訓練も行う必要がある。
- 児童は出火場所を放送から聞き取って、火元から遠い西階段を通って避難していた。これからもこの点は大切にしてほしい。
- 学校職員の指示にしたがって、児童は動けていたが、児童だけでも避難の動きができるように訓練をしていく必要がある。
- 報告の体制はきちんとできていたが、初期消火と児童の掌握の連絡は並行で行えるように体制づくりをしていく必要がある。
- 負傷者への対応の体制も作成しておく（担架・椅子等を使った訓練）
- 避難の際は、児童・職員ともヘルメットを着用した方がよい。
- 放送が聞き取りにくい。きちんと聞こえるように点検をしておく必要がある。

上記の内容については、職員会で避難訓練の反省の際に周知を図った。

4　学校防災アドバイザーによる講演会と、職員の防災意識の変容について

12 月５日（月）学校防災アドバイザー来校、以下の内容でご講演をいただいた。

防災研修会

1　ねらい

川上村で過去に起きた自然災害の事例やその時の学校での避難・防災の動き等から、今後災害が起きた際の避難のあり方について、先進の取り組み例等を参考して具体的な今後の活動について考える機会とする。

2　日　時　　平成 28 年 12 月５日（月）　　15：30～16：45

3　会　場　　川上第二小学校　視聴覚室

4　講　師　　信州大学教育学部　理数科学教育講座　教授　榊原保志　先生

5　内　容

（1）　川上村の過去の災害について

（2）　これからの防災・避難のあり方

（3）　質疑・応答

榊原先生からは、以下の点を中心に講義をしていただいた。

① 川上村の今までの災害の状況から、どのような災害を想定していくとよいのか。

② その災害に向けて、学校ではどのような備えをしておくべきか

③ 他市町村の防災マップと対応について

また、講義の前後に以下のようなアンケートを取ることを通して、職員の防災についての意識を調査することにした。

学校防災アンケートA

実施日： 平成28年　月　日　　氏名

1　次の質問に対応するあなたの気持ちを①から④で答え，○を付けてください。

① 大変そう思う	② そう思う	③そう思わない	④ 全くそう思わない

1.1 避難訓練の回数を今年度（　回）より多くすべきだ　（①　②　③　④）

1.2 授業として防災学習を実施したい　（①　②　③　④）

1.3 防災教育の指導法を知りたい　（①　②　③　④）

2　あなたの学校周辺で今後ありそうな自然災害は何でしょうか．ア～カに○をつけてください(複数回答可)

ア　火山噴火　イ　台風　ウ　地震　エ　津波　オ　土砂崩れ　カ　河川氾濫

3　これまで総合的な学習の時間などで防災学習（避難訓練は除く）を実施したことがある（はい，いいえ）

● （はいと回答した人のみ）どのような内容か簡単に書いてください．

回答ありがとうございました．

長野県学校防災アドバイザー　榊原保志(信州大学教育学部)

学校防災アンケートB(研修会事後)

実施日： 平成28年　月　日　　氏名

1　次の質問に対応するあなたの気持ちを①から④で答え，○を付けてください。

① 大変そう思う	② そう思う	③そう思わない	④ 全くそう思わない

1.1 避難訓練の回数を今年度（　回）より多くすべきだ　（①　②　③　④）

1.2 授業として防災学習を実施したい　（①　②　③　④）

1.3 防災教育の指導法を知りたい　（①　②　③　④）

1.4 本研修会の内容は今後役立つと感じた　（①　②　③　④）

● （①②と回答した人のみ）役立つと感じた内容を以下に書いてください

2　あなたの学校周辺で今後ありそうな自然災害は何でしょうか．ア～カに○をつけてください(複数回答可)

ア　火山噴火　イ　台風　ウ　地震　エ　津波　オ　土砂崩れ　カ　河川氾濫

3　今後防災教育に関わる研修会で聞いてみたい内容を書いてください

4　御意見・感想をお書きください

回答ありがとうございました．

長野県学校防災アドバイザー　榊原保志（信州大学教育学部）

5　事業の成果及び今後の課題

（1）成果

講演終了後の職員からは、以下のような意見が寄せられた。

- いろいろな想定をした上で、考える避難訓練を行いたい。
- 避難訓練のあり方と行い方について学ぶことができた。
- 被災した時に避難場所である学校の対応と事前に取組めることについて学んだ。
- 学校にいる時だけでなく、いつ・どこで起こるかわからない災害に対しての行動や対策を考えるきっかけとなった。
- ハザードマップを使って具体的なお話をお聞きすることができよかった。
- 川上村の災害リスクについてと避難訓練の持ち方について学んだ。
- 他地区の例を見て焦ってきました。
- 備蓄品が体育館にないことが不安になった。

・　学校が被災の可能性の高い場所にあることを確認できた。
・　考える避難訓練を行い、自分の身を守れる子ども達にしていきたいと思います。
・　ハザードマップの使い方や作成手順を知りたい。
・　職員・保護者・地域の方すべてが危機意識を持つ必要があることを感じた。そのきっかけを与えていただきありがとうございました。
・　自然災害の恐ろしさとその時の学校のあり方を考えさせていただく時間になりました。ありがとうございました。
・　学校としての責任の持ち方、やるべきことを明確に話していただき、危機感を持つことができました。
・　丁寧に危機感について教えていただきありがとうございました。

アンケートの数値の上でも、以下のように職員の防災への意識の向上が見られた。
『避難訓練の回数を今年度よりも多くすべきだ。』
（①を選択０％→25%　②を選択 9.1%→75%）
『授業として防災学習を実施したい』
（①を選択０％→38%　②を選択 55%→63%）

（２）課題

① 今回の講義を受けて、これからの防災体制について特に水害・土石流の想定を加えていく必要がある。
② 年間計画に、無理なく避難訓練を増やしていくために、他行事や授業との兼ね合いから、現行のままでは難しい。短時間実施の避難訓練（朝の時間等）を効率よく組み込んでいく必要がある。
③ 職員の防災意識は高まってきているので、これを児童の意識の高まりへとつなげていくために、防災教育の充実を今後はかっていきたい。

6　まとめ

今回、学校防災アドバイザー派遣事業により、この地ならではの危険性を職員自らが理解でき、防災意識を高めることができた。

これを機会に、さらに学校全体の日頃の防災意識を高めて、いざという時の災害に対応できる学校づくりを進めていきたい。

（文責　教頭　齋藤義和）

防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業の取組について

ー　生徒の安全を最優先した避難訓練の実施について　ー

立科町立立科中学校

1　はじめに

本校は、佐久地方の西南、立科町のほぼ中央に立地し、北に浅間山、南に八ヶ岳・蓼科山を望む自然に恵まれた地にあり、全校生徒数は188名、教職員数32名の小規模の学校である。中学校は標高684mで、近くの河川から見て高台に建てられており、また地盤も固く地震による大きな被害や火山噴火・河川氾濫などの自然災害が少ない地域でもある。

学校教育目標『○健康で粘り強い心と身体　○深く確かな知識　○思いやりのある美しい心』を達成すべく、全職員と生徒で日々の活動に取り組み、落ち着いた雰囲気で授業や部活動等に取り組んでいる。

2　本校の防災体制について（平成25年度以前）

立科町教育委員会指導のもと、防災体制の確立に努めてきた。具体的には『危機管理マニュアル』の見直しや年３回の避難訓練などを通して、職員・生徒が命を大切にする体制作りを目指してきた。

3　緊急地震速報受信システム設置前の避難訓練について（平成25年度以前）

(1)　第１回目（４月下旬実施）

火災を想定して避難経路の確認と身の安全を図ることの重要さを学ぶ。

(2)　第２回目（９月上旬実施）

地震を想定しての避難の方法を学ぶ。

(3)　第３回目（11月実施）

予告なしで教科担任の指導下での避難を経験する。

※　いずれの避難訓練でも校長・係・学級担任からの後指導が追加され、静かに素早く行動することの重要性を理解させるよう努めてきた。

4　緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練

(1)　緊急地震速報受信機設置に関わる取組

①　教職員に対する説明、研修

４月の職員会にて安全係による校内の防火、防災施設設置状況の説明に併せ、緊急地震速報受信機の使用方法や、受信機が作動した場合の対処の方法を全職員に周知徹底した。

②　生徒に対する指導

緊急地震速報の仕組みについて各学級で指導を行い、受信システムが作動し

た場合、どのような行動をとれば良いのか、授業中、休み時間等状況に合わせてとるべき行動を学習した。

(2) 緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練（平成 28 年度）

計画されていた４回の避難訓練に加え、本年度は緊急地震速報受信システムの訓練モードを利用したミニ防災訓練を２回実施した。

① 第１回防災訓練（４月８日実施）

火災に対する避難訓練を行い、川西消防署の消防士の方から指導をいただいた。

② 第２回防災訓練（６月７日実施）

火災に対する避難訓練２回目

③ 第３回防災訓練（９月１日実施）

地震に対する避難訓練と集団下校訓練を行った。

④ 第４回防災訓練（11 月 11 日実施）

地震に対する避難訓練を緊急地震速報受信システムの訓練モードを利用して行い、防災アドバイザーの榊原先生より指導をいただいた。

・ ミニ防災訓練（２回実施）

１回目は授業中、２回目は休み時間に緊急地震速報受信システムを訓練モードで作動させ、その場で身を守る行動を行う訓練を実施した。

5 学校防災アドバイザーとの関わり

11 月 11 日の防災訓練と併せ、２回来校いただく。１回目の来校では、校内の施設を見ていただき、防災の観点から改善のアドバイスをいただいた。

防災アドバイザーからのアドバイスをもとに、『立科中学校防災計画』の改定を行い、さらに、立科町教育委員会と連携しながら、防災の観点からの学校施設の改善計画の立案と、『立科町地域防災計画』に沿って災害時の避難所としての学校利用計画を作成した。また、11 月の避難訓練の折には、避難訓練の様子を見学し指導をいただいた。併せて立科小学校、蓼科高校の職員も参加して、職員向けの講演会（地震や火山噴火の際の有事の場合の対処の仕方等）を実施する。細かな点まで指導していただきありがたかった。

6 事業の成果及び今後の課題

全職員、全校生徒の安全意識を高めるきっかけになった。

大規模地震の際の安全確保や避難の仕方について、全クラス同じ内容の授業を行い、地震、防災への知識を深め、有事の際の行動について考えることができた。

今後の課題として、以下の点が明らかとなった。

(1) 緊急時の生徒の保護者への引き渡しについて検討し、町や、小学校との連携も進めていく必要がある。

(2) 避難所運営の際の資材や食料等の備蓄や利用、避難所の運営について町とさらに綿密な連携をしていく必要がある。

(3) 防災教育について本年度実施した内容を例年度以降へも引き継いでいくことが必要である。

7　まとめ

命を大切にする教育が浸透しつつあり、これを更に充実していけるように、職員研修、授業づくりを進め、防災訓練やミニ防災訓練での機器の有効活用を進めていきたい。

（文責　校　長 幅 誠一郎）
（文責　安全係 松本 香樹）

防災管理・児童引き渡しに関わる取組

― 学校防災アドバイザー派遣・活用事業 ―

東御市立田中小学校

1　はじめに

本校は、東御市中心部の田中地区にあり、児童数506名の学校である。学区は国道18号線と千曲川に沿って東西に広がっており、児童は全員徒歩で登下校している。

近年、地震による目立った被害はないが、過去には寛保２年（1742）の大水害（戌の満水）によって、当時の田中宿が壊滅する被害を受けている。その土石流の痕跡は、東部湯の丸インターの辺りからサンテラスホール、中央公園、東部中学校付近に残されている。また浅間山も遠くはなく、噴火の被害もあり得る学区である。敷地の状況としては、駐車場及び進入道路が手狭で、災害時の車両の駐車・移動に混乱が生じる可能性があり、環境上の課題である。

2　本校の防災体制（概要）

「防火・防災計画」「消防計画」「危機管理マニュアル」等によって防災計画をたて、組織は学校長を本部長として全職員で組織し、災害時に備えている。計画に基づいて、年３回の全校児童参加による防災訓練（４・９・11月）を実施し、今年度、初めて保護者への引き渡し訓練を実施した。また、県の「学校防災アドバイザー派遣・活用事業」の対象校として、信州大学教育学部教授の廣内大助先生より支援を受け、防災体制の充実を図っている。

3　学校防災アドバイザーの関わり

（１）　引渡訓練に向けて

①引渡カードの作成

・アドバイザーの廣内先生から提供された資料、教頭の前任校の資料をもとに新規作成。アドバイザーから提供された資料が有益で、本校で実際に作成したカードの内容についても指導をいただいた。

・全校児童のカードを１人１枚作成し、通学路図とともに、非常持ち出し品として職員室に常備。

②通学路図の改訂

・通学路図を毎年配布していない現状があったので、昨年２学期から各地区の保護者の協力を得ながら詳細な通学路図を作成。

・全校児童の通学路図を１人１枚作成し、引渡カードとともに、非常持ち出し品として職員室に常備。

③保護者への周知

・年間行事予定表に６／７の訓練を明記。

・５月に実施要項を保護者通知。車での来校を禁止する旨周知。

（２） 引渡訓練の実施

平成 28 年６月７日（火）アドバイザーの立会・指導のもと、引き渡し訓練を実施した。

①避難訓練

・緊急地震速報を流し、校庭への避難を行う。

・引渡を想定し、校舎側に向かって整列・点呼。職員の係活動は省略。

・アドバイザーの先生から、避難訓練についての講評をいただく。

②保護者の来校

・メール配信で当日訓練の１時間前に配信

・災害を想定して、車での来校を禁止。ほとんどの保護者が徒歩でのお迎えに協力してくれ、車で駐車場が混乱することはなかった。

③引渡

・校庭東側に保護者待機。通知文をよく読んでいない保護者から苦情の声。この点について、アドバイザーから、大きな掲示等をすることで、待つ間にそれを読んでいてもらえばよい、また、それをバックネット等に常設しておくこともよいとのアドバイスをいただいた。

・低学年児童保護者から順次引渡開始。児童と保護者の間隔をとらずに引き渡したが、保護者の列と児童の列を離し、中央で引き渡すこともよかったかもしれない。

・15 時までに来校できない保護者の児童は、以後、教室で待機させる。迎えに来られるまで、どんなに遅くなっても、学校で待機させると周知してあったので、職員も遅くなることを覚悟していたが、18 時前までには、全ての児童を引き渡すことができた。

避難訓練時の廣内先生の講話

引渡の様子

4　事業の成果と課題

・昨年度の児童のみの訓練から踏み出し、保護者参加の訓練を初めて実施できた。
・引渡のイメージをとりあえずは、児童・保護者・学校で共有することができた。
・停電となった際の連絡方法。あらかじめ、「震度〇以上は引渡しとなる」よう定めておくことを含め、今回の実施をもとに「引渡要項」のようなものを作成、配布しておく必要がある。
・学校職員が、アドバイザーの先生と知り合い、専門的な見地から直接、指導・支援をいただけたことが、何よりの成果であった。
・去る平成 28 年 7 月 14 日に行われた防災教育会議において、今回の取り組みを報告させていただいたことも、本校の防災教育・体制整備に有益であった。

5　まとめ

東日本大震災時の大川小などの事例に学び、様々な状況を想定して児童の避難や引渡等を考えて備え、訓練を行うことが必要であると考えている。また、学年・学級単位で防災教育に取り組み、児童から主体的な学びが生まれるように導いていくことも大切であろう。具体的には、社会科や生活科、総合的な学習の時間等の中で、子ども達が課題をもって､地域や学校の防災について自ら学ぶように指導していけたらよいと思われる。

その折にも、アドバイザーの先生から多くを学びたいと考える。

（文責　教頭　橋詰文彦）

防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業の取組について

― 学校防災アドバイザー派遣･活用事業 ―

東御市立祢津小学校

1 はじめに

本校は東御市の北東部、烏帽子、湯の丸、三方ヶ峰の裾野に位置し、ゆるやかな南傾斜に広がる田園地帯に立地する全校児童 264 名の２学級規模の学校である。また、開校 120 年余を迎えた伝統ある学校である。

2 本校の防災体制について

（１）防災組織と職務内容

係　名	職　員	内　容
本　部 連　絡	○校長　教頭 教務主任 防災係主任　事務	・本部・係間の連絡、校内通報 ・消防署への連絡、公設消防団誘導 ・非常時持ち出し物確認、搬出をする
児童の指導 及び保護	○学級担任 専科担任 支援員	・児童を安全な場所に誘導、避難させる ・残留児童の確認
消　火	○学級担任 専科担任	・初期消火にあたる （消防署員到着後は他の係の応援） ・消火器、消火栓の整備・確認、取扱い
給食室	○調理員	・給食室の火気を止める。
ボイラー室	○庁務員	・ボイラー室と北校舎１階の火気を止める
救　護	○養護教諭・学級担任	・負傷者、病人の手当と救護をする
児童掌握	○学年主任	・避難後の児童掌握、指導
残留児童捜索	○専科 学級担任 司書	・残留児童がいた場合、捜索にあたる ・各捜索場所の確認をし、発見後の連絡と避難の仕方を共通理解しておく
査　察	○校長・教頭・ 防災係主任（常時）	・日常の消火査察

（２）避難訓練の実施内容

①第１回避難訓練（４月 13 日）

○実施時間　９：50～10：30（２校時）

○目的　教室からの避難経路の確認、火災時の避難方法

○内容　①火災による授業時間中の避難（想定：給食室から火災発生）

②消火訓練の見学（消火器の使用方法について　消防署員からの指導）

②第２回避難訓練（９月１日）《緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練》

○実施時間　９：50～10：30（２校時）

○目的　地震時の教室からの避難方法、地域連携防災

○内容　①地震による授業時間中の避難

（想定：地震発生→地震見張り番の放送）

②地震により放送機器が使えない場合の緊急放送のやり方の訓練

③負傷児童の搬出訓練

○地域安全委員会の実施（訓練参観後　校長室にて）

※構成：区長会長、消防団長、見守り隊長、ＰＴＡ校外指導部長、支部長会長

③第３回避難訓練（11 月５日）

○実施時間　10：30～11：15（休み時間～３校時）

○目的　休み時間時の大規模地震発生後の火災発生を想定した場合の避難方法

○内容　①地震見張り番による緊急放送

②指示を正確に聞き取り、各自の休み時間にいる場所からの避難

③残留児童の捜索訓練

３　学校防災アドバイザーのかかわり

（１）学校訪問と指導　１月 13 日（金）　10：50～14：00

①防災組織とこれまでの避難訓練に対する指導、助言

②４・５・６年生児童への講義

演題「災害に備える　どうすれば？」～～自分で考えて動くこと～～

廣内先生がパワーポイントで　ア：熊本地震と東日本大震災から学ぶこと

イ：長野県は災害が少ないか

ウ：どう備えるか？　学校では？　登下校では？

エ：身の回りの危険を知ろう　等の講義を行った

《大切なこと》

◆自分の命を自分で守る

◆どんな状況でもどうしたら最も安全か考える

◆普段から何が危険なのか身の回りのことで考え対策をとっておく

③緊急時引き渡し方法引き方法について指導、助言

○緊急時引き渡し方法について

○第一回保護者引き渡し訓練の計画案について

（２）学校防災アドバイザーからのアドバイス

・初めての引き渡し訓練では保護者から様々な声が出るし混乱が生じるため、訓練で引き渡しの方法をきちんと伝えておくことが重要である。また、保護者の動きをしっかりと予測しておいたうえで準備したい。

・どんな事態が起きるのか、それを回避するためにどのような準備や周知が必要であるのかを考えておくことが必要である。

・引き渡す側が保護者等の続柄を明確に確認すること。また、あとで誰に引き渡したかが分かるように記録をとること。そのためには活用できるような引き渡しカードの工夫が必要である。
・保護者の導線に立て看版を立てて、職員が誘導せずとも引き渡し会場に着けるように準備をしておく。
・学校の周辺はごちゃごちゃとかなり込み入っている道である。保護者の迎えの車をどのように受け入れるかが大きな課題。
・緊急避難時に一時的に駐車場として使わせてもらえる場所を考えておく。
・普段から一方通行のルールを徹底しておくと，災害時に混乱しない。
・引き渡しの順番、駐車場の確認など、保育園と連携しておく必要がある。
・待機場所を作ることで混乱を最小限にする。教頭と複数の職員が対応する体制を計画の段階から組んでおく。
・最初は校庭や体育館といった広い場所で引き渡し、児童が 10%程度になったらプレイルームや教室等に場所を移す。保護者にも事前に連絡をしておく。

４　今後の課題

（１）いざというときすぐに行動できるようにするためには、その場に応じた避難行動ができるよう訓練をくり返し行うことが大切。
（２）校内の安全環境の再点検と安全帯の設置、行動のきまり等の見直し、表示の工夫。
（３）一次避難後の対応と保護者引き渡し訓練の実施。
（４）放送が使えない時の緊急放送のやり方の訓練。

５　まとめ

昨年度の課題をうけて、本年度は放送が使えない時の緊急放送のやり方、避難の仕方の訓練を行った。放送が使えない場合が起こり得ること、その場合の行動について全校で考えることができ、職員、児童の地震への防災意識が高まった。

学校防災アドバイザーの廣内大助先生には、パワーポイントで「災害に備える　どうすれば？」について４年生以上の児童へ講義をしていただいた。また、大地震と地震後を想定しての避難･引き渡し訓練のあり方について､具体的な改善点をご示唆いただくことができた。

本年度､学校防災アドバイザーから指導･助言をいただいたことで､緊急時引き渡し訓練の来年度の本格実施に向け、職員は何を準備し、災害時にどのように動けば良いのかが見えてきた。今後も、アドバイザーからの支援を受けながら，様々な状況を想定した訓練の実施や学校環境の改善に取り組み、災害に備えていきたい。

（文責　教頭　駒津美恵）

防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業の取組について

―　緊急地震速報受信システムを利用した

休み時間の避難訓練の実施について　―

東御市立和小学校

１　はじめに

本校は東御市の北西に位置し、上信越道と浅間サンラインが近くを通っている。また、学校の近くは金原川が流れる。扇状地の中間に位置している。標高は643mあり、校舎の後方には烏帽子岳、前方には千曲川、美ヶ原、蓼科山、八ヶ岳を一望できる。敷地内には県宝の旧和学校校舎がある。

開校から 137 年経っており、それまでの間には平成元年８月に集中豪雨により金原川が氾濫しプールに土砂が流入する災害や、平成 26 年２月には大雪の災害があった。

平成 28 年度の児童数児童数は 373 名で、中規模校である。

２　本校の防災体制について

(1)　和小学校防護団組織（抜粋：H28 危機管理マニュアルの抜粋）

本　部	総括、渉外、情報収集、指示	○校長 教頭 教務主任 防災係
救護	けが人の救護	○養護教諭
消火	初期消火、防火扉の閉鎖	○学級担任
搬出	非常持ち出し品の搬出、管理	○専科
児童掌握	平時；避難所での安全管理	○学級担任
不明者捜索	不明等；捜索、他の係への協力	○学級担任

(2)　避難訓練の実施内容について

- ４月：授業中の火災を想定（避難経路の確認、消防への派遣申請を３月に行う）
- ６月：ショート避難訓練
- ９月：地震後火災を想定（集団下校への移行訓練）
- 11 月：休み時間に地震後火災を想定（行方不明者があった場合の訓練・消火訓練）
- １月：ショート避難訓練

※　６月・１月のショート避難訓練と、９月・11 月の２回の避難訓練は、地震を想定し緊急地震速報受信システムを活用して実施している。

(3)　緊急地震速報受信システムを活用しての避難訓練の様子

①　11 月７日（月）10：30～10：55　（第２校時休み時間中に実施）

②　避難訓練のねらい

地震や火災などの非常時に際し、自分の判断で、安全かつ速やかに避難できるようにする。

③　指導の重点

ア　緊急放送（緊急地震速報や火災報知器）を落ち着いて最後まで静かに聞くことができる。

イ　休み時間には、遊びや行動をやめ安全な場所に止まり、静かに聞く。

ウ　近くにいる人とまとまって行動できる。

エ　自分で適切な判断をおこなう。

オ　近くにいる先生の指示に従って、黙って行動できるようにする。

④　想定：地震の後、給食室より火災が発生したため校庭に避難する。

⑤　避難訓練後の反省

・　当日放送機器の不具合により緊急地震速報と火災を知らせる放送が流れなかったが、非常ベルが鳴るとその場で机に潜ったり、柱の近くに座ったりすることはできた。放送がなかったため職員が誘導するまで動いたり不安を口にしたりする子どもがいた。

・　職員が放送無しで非常ベルのみの場合の対処法については想定していなかったので、避難誘導に時間がかかってしまったが、その場の判断で安全な誘導はできた。

3　学校防災アドバイザーとの関わり

本校では、緊急地震速報受信システムが設置されて４年目であり、本システムを使用についてアドバイスをいただいていたが、今年度は学校防災アドバイザーに避難訓練の様子を見ていただき訓練について指導していただく機会を取った。緊急地震速報受信システムが作動しなかったが、放送機器が使用できない場面での訓練を見ていただくことになった。実際の災害でも起こりうることなので、想定外ではあったが、学校防災アドバイザーに具体的に指導していただき、マニュアルや体制の見直しをすることができた。

機器の基本機能の周知や操作については防災係がしっかり引き継ぎ理解していなかったため、震度５弱以上の場合のみテスト放送が流れることを理解していなかった。訓練の事前テストでは過去のデータによる放送だったので校舎内外に速報が流れた。

来年度は、学校防災アドバイザーを事前に派遣申請し、和小学校の防災体制全体の見直しをするために、基本的な危機管理について指導をしていただきたいと考えている。

(1)　防災アドバイザーからの指導内容

①　避難訓練の様子から

・　低学年の教室では、10:30 に開始の予定だったが、ベルが鳴ったのは 33 分 20 秒で約１分、子ども達は、地震という放送が無くても机の下に隠れて待つ児童や静かに座って待つ組もあった。

・　放送がないので、先生方が廊下に出て様子をうかがう姿もあった。この場合、指示する側で大きな声で指示を出す必要があった。先生方が伝令となって指示を伝える必要がある。

・　10:36 校庭の集合段階で、朝の欠席が７名と報告されていたが報告の中での合計が９名でずれていたが不明者の確認の上でも正確に把握が必要だと思われる。放送が使えない状況があり、不明者の捜索が並行して行われているところでは状況の確認・連絡が細かくされる必要がある。考えて判断することの大切さが求められた訓練となった。

・　全員静かに避難していたが、今回は放送で火事・地震の放送が無かったためかにハンカチを口に当てている児童が少なかった。指導の中で事前に指導していくことも大切である。

②　今後の訓練で必要なこと

・　放送を使って再度訓練をしてみることも計画してみること。(地震速報システム・校内放送)

・　煙霧体験の訓練も時には必要である。呼吸ができなくなることを実感してみる。

・　火災時の訓練で防火扉も使っての訓練もある。

・　火災時の初期消火は効果的である。消防署の指導の元で消化器の訓練もできる。

③　火災時の初期対応について

・　第一発見者が火事だと叫ぶ。(何かがあったときは大声で伝えること。)

・　消化器による消化をする。（消化器は 20 秒ほどで止まるが効果はある。）

・　避難する者は動かず、まず待って出火場所の確認をする。

・　口を押さえる。

・　通報訓練も大切である。（到着時刻の確認をする。）

④　防災教育について

・　全校で防災学習を進める（学年の段階を考えて計画する。）

・　事例　１）「どういう物が危ないか考えてみよう。」
(教室の中で、学校の中で、登下校の中で…)

２）「家で危ない物はないか考えてこよう。」
(お家の方と協力して防災学習を進める)

３）「授業参観と引き渡し訓練を同時に行う」
(参観日に防災学習をする)

４）「小学校６年間のカリキュラム作り」
(月に１回防災学習を位置づける)

(2)　学校として取り組んだこと

①　地震時、危険回避のために再度校舎内外のチェックをした。

②　緊急地震速報受信システムと校内放送が聞き取れる範囲のチェックをした。

③　緊急地震速報受信システムと校内放送を使ってショート避難訓練をした。

4　事業の成果及び今後の課題

(1)　緊急地震速報受信システムと校内放送等の訓練に慣れていたので、機器の不具合の場合も想定し訓練を見直すことができた。

(2)　火災が発生した時に、火災の場所の確認と初期消火体制を大切にしていく。

(3)　地震対応への環境整備を進めていくために、今年度はショート訓練を入れて避難訓練の回数を増やした。来年度も計画していきたい。

(4)　今年度も防災教育までは取り組めていないことが課題である。総合的な学習の時間の中で取り組めるか学年で検討していく。

5　まとめ

学校防災アドバイザーの支援を受けたことで、防災安全教育について新しい視点で考えることができた。緊急地震速報受信システムを活用して避難訓練を行うだけでなく、学校全体の防災体制全体の見直しを行っていくことが必要である。

来年度以降に向けて、本年度のから具体的な体制について検討を進めていきたい。また、学校だけではなく、家庭や地域との連携も進めて安全な生活を守っていきたい。

（文責　防災係　柳澤　廣）

飯島町における防災体制の構築に向けて

―　本校における防災訓練と今後の課題　―

飯島町立飯島小学校

１　はじめに

本校は、飯島町の中心部に位置し、児童数 434 名の学校である。飯島町には小学校２校、中学校１校の３校（飯島小学校、七久保小学校、飯島中学校）があり、研修会を含め、さまざまな面で連携をとりながら活動を進めている。飯島中と飯島小は隣に位置し、町役場や飯島駅は歩いて数分の場所に位置している。

飯島町では大きな災害は近年発生していないが、町としての「総合ハザードマップ」などを作成するなど、防災体制の構築に力を入れてきている。９月 20 日には、台風の接近に伴い、学校を避難所として開放する方向も一時検討されたが、結果、公民館を開放するという対応がとられた。

２　本校の防災教育

本校では、「学校安全計画」や「学校危機管理マニュアル」などに従って、防災教育を進めている。本年度は、保護者の協力を得て、４月 22 日に初めての「緊急時の児童引渡し訓練」を実施した。また、ここ数年、中学校が隣にあるという地理的条件を活かして、中学校と合同の避難訓練も実施している。本年度は以下のような訓練を実施した。

４月　７日（木）　集団下校訓練
４月 12 日（火）　第１回避難訓練（３校時に火災の想定で実施）
４月 22 日（金）　緊急時の児童引渡し訓練
９月　１日（木）　小、中合同避難訓練（飯島小校庭に小、中の児童生徒が避難）
11 月 21 日（月）　第３回避難訓練（２時休みに抜き打ちで地震の想定で実施）
12 月 26 日（月）　三校、町危機管理係、町教育委員会との防災教育懇談会

本校では、本年度 11 月と 12 月の２回、学校防災アドバイザーの榊原保志先生よりご指導をいただいた。

３　学校防災アドバイザーによる支援

(1)　第１回アドバイザー支援

11 月 21 日の２時間目休みに地震の想定で緊急地震速報器を活用して、児童には連絡をせず抜き打ちの避難訓練を実施した。訓練後、校長、教頭、係職員に対して、避難訓練の様子について榊原先生からご指導をいただいた。

・どの程度の規模の地震の際に避難を実施するのか基準を作っておく。
・人員確認は係活動後、全職員が集まってから行うことを徹底する。
・教室にいない児童が、地震発生の際に取るべき行動について日頃より指導しておく。

・避難後、町や中学校、保護者との連携のあり方をマニュアル化していく。
などの点についてご指導をいただいた。

(2) 第２回アドバイザー支援

第１回の榊原先生からのご指導を受け、第２回のアドバイザー派遣については、急遽、飯島町の危機管理係、教育委員会と飯島小学校、七久保小学校による地震発生から避難後の対応についての懇談会を実施することとなった。

12 月 26 日、町の危機管理係１名、教育委員会１名、町の防災アドバイザー１名、学校防災アドバイザー１名、３校の校長・教頭６名での懇談会を実施した。３校の職員と町の関係者が一堂に会して話し合う機会は今まで一度も行われたことはなく、初めての会合であった。そのため、それぞれの防災計画と防災訓練の実際の様子について出し合い、連携のための課題を共有することとした。その中で、以下のような課題が出された。

・小、中に児童生徒がいる家庭に対しての引渡しの実際を考えた連携のあり方
・避難後の対応に対する町との情報伝達のあり方
・区や公民館との連携の取り方
・避難所設置に向けて、対応可能人数の把握や必要物品の把握
・合同の防災訓練のあり方
・災害を最小限に食い止めるための予防教育の内容
などの課題が出された。

４　事業の成果及び今後の課題

今年度、２回のアドバイザーからの支援により、①避難訓練の実際から見えてくる課題、②町ぐるみの防災への対応のあり方という具体の課題と大きな課題について考える機会をいただいた。特に、町全体での防災体制の構築に向けては、今まで情報や課題を共有する機会が全くなかったため、とても有意義な時間となった。

今後、すぐに課題を解決していけるわけではないが、学校、町でそれぞれ持ち帰り検討をし、計画的に話し合う機会をとりながらできることから改善を進めていきたい。

（文責　教頭　後藤卓己）

防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業の取組について

―　保護者・地域と連携した防災教育の実現に向けて　―

飯島町立七久保小学校

1　はじめに

本校は七久保の中心地に位置し、西に南駒ケ岳を仰ぎ、東に赤石の連山を眺望できる、風光明媚な扇状地の上にある。

校門を出ると昔の名残をとどめる旧三州街道に出る。家並みを過ぎると田園風景が広がり、山も迫る。自然に恵まれた七久保地区に、全校児童数 121 名の七久保小学校がある。

2　本校の防災体制

本部　校長　教頭
・全体の統括

防災対策委員会
教務、安全防災係
・本部長の諮問に答える
・震災対策の立案

情報伝達　教頭
・警戒宣言の受理、伝達・避難命令の受理、伝達、災害情報の収集・関係機関等との連絡、報告

避難誘導　教務主任　学級担任
・児童の避難場所への誘導・児童の人員確認
・児童引率および保護者への引き渡し

搬　出　久保田　藤澤
・非常持ち出し品の確認
・応援者への持ち出し品の指示

消　火　江口　富本　安藤
・貯水池、河川の確認・消火器の点検（薬品詰替）・電源、ガス栓ストーブ、薬品等発火物の確認

児童保護　中嶋　新谷
・滞留児童の保護　・必要食料等の確保

救　護　北澤　（氣賀沢）
・避難場所への救護所の設置　・救護用意薬品、備品等の準備　・負傷者、急病人の救護

検索警備　富成（南校舎）座光寺（北校舎）
桃澤（体育館）
・校舎内等、残留児童の点検　・搬出物品の監視

施設設備点検　教頭　横山　久保田
・日常の施設設備（消火器等）の点検・緊急時の施設設備の点検・被災後の施設設備の把握・二次災害の防止

3　学校防災アドバイザーとの関わり

昨年度、学校防災アドバイザーからの指導の中で、次のことが課題となっていた。

・小学校６年間を見通した防災教育指導計画を作成する。
・防災教育の授業を保護者にも公開し、家庭の防災意識の高揚を図る。
・登下校時や休日等の災害の発生を想定し、地域や町と連携した訓練を進めていく。

そこで､今年度は､緊急地震速報受信システムを使った訓練を定期的に実施しながら、上記３点について重点的に取り組むことにした。

(1)　防災教育年間指導計画の作成

教科、道徳、総合的な学習の時間、学級活動、学校行事などにおいて、防災とかかわる指導内容を取り出し、学年ごとの年間指導計画を作成した。

～学校防災アドバイザーからの指導・助言～

教科、学級活動、行事など有機的に取り組んでいる。理科の『流水の働き』でメカニズムを学習すると自然災害の危険性がわかってくる。担任の意識も違う。学習が身近な生活と関連していることに気付き、よい学習効果が上がる。作成した年間指導計画をもとに実践を積み重ねながら修正を加えていくとよい。

(2)　参観日における防災教育の授業の一斉公開

９月の土曜参観日を防災教育授業公開日として年間行事計画表に位置づけ、全学級が防災教育の授業を公開した。授業内容は年間指導計画に基づいて実施された。

～学校防災アドバイザーからの指導・助言～

①１年生の授業では、子どもたちに理由を考えさせることで机の下にもぐる意味をわからせていた。全員が机の下に頭が入っているかどうか確認していた。発達段階に応じた指導がなされていた。

②６年生の授業では、親子で学習する場面を設定し、保護者と子どもの意見の交換が見られた。このような学習を積み重ねていくと、保護者の意識が変わっていく。保護者に「家庭で防災教育を進めてほしい。」と言っても難しい面があるが、親子で学習することでお家の方が「自分だったらどうしよう」と共に考えることができる。家庭でも災害から身を守っていくことを意識するようになる。親子で学習する機会を増やしていきたい。

授業を参観した保護者からは、次のような感想が寄せられた。

・家の都合で防災の授業参観のみでした。どんなものが危ないのか、また、普段の訓練とは違った状況（給食の時間）で予測できることを一緒に考えることができて、よかったと思いました。その場に先生がいない時、避難までの指示を出す人がいない時、どうするのか子どもたちが自分で考え行動するということにつながるとよいと思います。（１年保護者）
・実際に防災マップを使って班ごとに話し合った。親も交えて、実際に被害に遭った時の避難場所、危険場所など確認した。防災マップはじっくり見たことがないので、勉強になった。家の中での避難場所、外での避難場所を今一度家族でも確認したいと思う。（５年保護者）

(3)　地域・町と連携した訓練に向けての話し合い

６月に町の一斉メールを使い児童引き渡し訓練を行った結果、近くにある保育園との合同訓練の必要性が反省として出された。また学校防災アドバイザーからも、小中学校同時の引き渡し訓練､地域の避難訓練に連動した引き渡し訓練等の実施に向けて、学校同士の連携を取っていくことが大切であるというアドバイスを受けた。そこで、学校防災アドバイザー、町防災アドバイザー、町危機管理係、町教委、町３校の校長・教頭が集まり、話し合いの機会を持った。話し合いでは、各校の防災教育の取組や町の防災計画についての情報交換が行われた。そして喫緊の課題として、小中学校３校と保育園３園との合同の引き渡し訓練を行うことが確認された。

4　事業の成果および今後の課題

(1) 緊急地震速報システムを使った訓練を繰り返すことで、子どもたちが自分で状況を察知し適切な避難方法を判断できるようになってきた。今後も様々な状況を設定し訓練を行っていく。

(2) 防災教育が学校でどのように行われているのか実際に目で見て知っている保護者はいないと思われる。今回全校一斉に防災教育の授業を公開したことで、保護者の防災意識を多少なりとも高められたと思われる。今後も防災に関する学習を親子で行い、家庭の防災意識を高めていく必要性を感じる。また、防災教育指導計画の見直しを図りながら、指導案を集積しきたい。

(3) 町の防災機関、町内の小中学校と話し合いを持つことで、地域や町全体と連携した防災訓練実施の方向が見えてきた。また、町の防災計画において各校が避難所としてどのように機能するのか等もわかった。町内小中学校・保育園合同の引き渡し訓練の実施に向けて、具体的に進めていきたい。

5　まとめ

今まで学校内だけでの訓練、防災教育であったが、保護者への啓発や地域との連携に向けて動き始めた。いつ起きるかわからない災害に対して防災教育、防災管理の必要性を自分のこととして受け止められるよう、教職員、保護者、地域住民に働きかけていくことが大切である。今後も、学校防災アドバイザーからの指導を受けながら、災害時に実際に機能する防災体制を整えていきたい。

（文責　教頭　田畑昭彦）

防災管理、防災教育の充実に向けた取組について

― 学校防災アドバイザー派遣・活用事業 ―

飯田市立上郷小学校

1　はじめに

本校は飯田市上郷のほぼ中心に位置している。学区は東西に細長く、野底山の麓から天竜川の河川敷まで広がっている。そのため、土砂災害や洪水など様々な災害が予想される。また、南信に位置しているため、近い将来起こる可能性があると言われている東海地震の影響を強く受けることが考えられる。

各学年３～４クラスで全校児童は 751 人。自校給食を行っているため職員は 62 名と多い。

2　本校の防災体制について（概要）

①　避難訓練は毎年４回以上行っている。その度に火災や地震、不審者、休み時間の地震など想定を変えて実施している。不審者対応訓練の際は警察の方に依頼して不審者役やアドバイザー役を引き受けていただいているが、その他の地震や火災の訓練の際は専門家にご指導やご助言を依頼することなく行ってきた。

②　避難訓練とは別に、引き渡し訓練や集団下校訓練を行っている。昨年飯田市で発生した発砲事件や、外国人逃走事件の際には実際に引き渡しを行ったり集団下校を行ったりしたが、大きな混乱もなく訓練が活きる結果となった。

③　年間計画に位置付けて計画的に実施しているものの一通りの訓練をやり終えるまでに半年以上かかっているため、１年生の避難や新しく来た先生方への避難方法の周知に課題がある。

3　学校防災アドバイザーの関わり

①　学校防災アドバイザーから、どのような支援を受けたいと考えたのか

ア　避難訓練の際に専門家などの指導者を呼んで実施していなかったため、実際に避難訓練の様子を見ていただき、指導していただきたい。

イ　各教室に設置する実践的な避難マニュアルの指導をしていただきたい。

ウ　学校の施設を見ていただき、危険個所等のご指摘をいただきたい。

②　学校防災アドバイザーから受けたアドバイスの内容

ア　<u>施設について</u>

・　出入り口の上のガラスだけでも飛散防止シートを貼っておくべき。（図１）

図１　飛散防止フィルムについて

図２　職員室パソコン周辺について

・　ガラスの戸棚にも貼るとよい
・　職員室が特に危険　→　パソコン回りのプリンターなど・壁や窓際の物・給湯室の棚の固定をすると良い（図２）
・　事務室も危険　→　金庫の上の旗・棚の上のものなど
・　体育館の天井パネルは安全基準をクリアしているか確認が必要（確認済）

イ　休み時間の地震による避難訓練の様子について

・　子どもたちは落ち着いた行動ができていて良い（図３）
・　分担場所以外の場所で何ができるのか考えてほしい
・　一番は職員が自分の命を守ること
・　低学年には具体的な指示ができるように想定しておくことが大切
・　実際に地震のあとに火災が起きた場合は消火が最優先となるため本来の係と違う活動になることが予想されるので消火の順番も変えておくべきか
・　緊急地震速報が鳴って余裕があればカーテンを閉め、扉は開けておくとよい
・　訓練と違うときは順番も変わるので職員間のコミュニケーションをとって臨機応変に対応する
・　マニュアルはあくまでマニュアル、事前確認のために使用してほしい

図３　　休み時間避難訓練の様子

③学校として取り組んだ内容

ア　教えていただいたことについて職員会で周知した。

イ　年度当初に確認できるようなマニュアルを各クラスに配置するために各項目Ａ４でまとめたものを係で検討した。

ウ　飛散防止フィルムについて事務室に相談し予算を通してもらえるように検討中。

4　事業の成果及び今後の課題

校内視察をしていただいたことで校舎内外の課題が見えてきた。例えば本校では休み時間に災害が起きた時に、消火栓の前に定めてある「避難集合場所」に集まってから校庭に避難していくことになっているが、その周辺にガラスや蛍光灯が散乱してしまった場合は集合することが困難になってしまう。そこで、避難集合場所の周辺の安全の確保を急ぐ必要がある。というように、実際に災害が起きた時の状況を可能な限り予測し、先に手を打っておくべき場所の洗い出しが必要だと分かった。

今後の課題としては、指摘していただいた部分の優先順位をつけて順次実施していくことだと考える。とくに、施設面でできることはすぐに実施していきたい。

5　まとめ

今回の事業に応募したそもそものきっかけは、本校の避難訓練が実践的なものかどうかを第三者の目で見ていただき、ご指摘いただきたいというものだった。実際に見ていただき、子ども達の避難の様子を褒めていただいたことは、これまでの訓練が間違っていなかったということにつながるのではないかと思い安心した。一方でガラスのことや職員室のことについては普段気づけない部分だったので、ご指摘いただきとてもありがたかった。以前、校舎全部のガラスに飛散フィルムを張ろうと検討したところ金額が膨れ上がり、安全指導係の予算では到底まかないきれないことがわかり、フィルム自体を断念したことがあった。しかし、出入り口周辺を優先的に行えばいいことを教えてもらったので可能かどうか検討していきたい。

また、教えていただいたことを職員間で共有したことでキャスターを止めたり、棚の上の物をどかしたり少しずつ環境が整備され出した。これも成果の一つだと考える。

災害が起きる前に可能な限りの準備を進めていきたい。

（文責　教諭　両角竜平）